

Ⅲ 外部有識者による意見

富士市教育委員会では、「富士市教育委員会自己点検・評価に関する外部評価検討会」（以下「外部評価検討会」という。）を設置し、次の４人の外部有識者に委員を委嘱している。

氏 名	所 属 等
島田 桂吾	会長・静岡大学教育学部准教授
鈴木 幸人	会長職務代理者・富士教育会館館長・元富士市校長会会長
工藤 千麻琴	青少年教育指導者 元富士市立高等学校学校運営協議会委員
内田 祐子	令和７年度富士商工会議所青年部会長

「令和７年度富士市教育委員会の自己点検・評価」に関する所見(外部評価報告)

はじめに

外部評価検討会の委員（以下「外部評価委員」という。）４人は、「富士市教育委員会の自己点検・評価」の外部評価を行う目的で、富士市教育委員会から委嘱を受けた。

本年度は、令和８年５月２６日に第１回外部評価検討会を開催し、令和７年度富士市教育委員会の自己点検・評価について説明を受けた。外部評価の検討に際し活用した主な資料は、次のとおりである。

- ① 第二次富士市教育振興基本計画（令和４年３月発行）
- ② 令和７年度 富士市の教育行政 一方針と施策一
- ③ 令和７年度 富士市教育委員会自己点検・評価報告書（案）

富士市教育委員会の自己点検・評価は、「大項目１ 教育委員会の活動」、「大項目２ 教育委員会が管理・執行する事務」、「大項目３ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」で構成されている。

教育委員会の諸事業は、令和４年度から「第二次富士市教育振興基本計画」に体系付けられ、その内容に基づき実施されている。教育委員会の自己点検・評価も同計画の進捗状況を鑑み、行われている。

続いて令和８年６月３日に第２回外部評価検討会を開催し、教育長や教育委員、各所属長からの聞き取りを行った。会合は、外部評価委員が質疑を行い、教育委員会側が応答するという方式で進行し、終了後に、外部評価委員間での意見交換を基に、「令和７年度富士市教育委員会の諸事業に対する総合的評価」を出席者に述べた。

本報告は、「はじめに」、「総合所見」、「個別意見」及び「おわりに」からなる。「総合所見」は、上記の総合的評価を基本に会長の責任でまとめたものであり、「個別意見」は、主要事項に対する外部評価委員の意見を集約したものである。

総合所見

外部評価検討会では、令和7年度の富士市教育委員会の事業全般について検討・議論を行った。各事業に関する外部評価委員各々の意見は「個別意見」として述べ、外部評価委員の総意として、以下の点について総合所見として指摘することとする。

【評価できる点】

- ・教育振興基本計画の前期5年間における基盤整備が、着実に進められてきた点である。

特に、GIGAスクール構想によるICT環境の整備、全校コミュニティ・スクール化、幼保小の架け橋プログラムの推進、特別支援教育の充実など、教育振興基本計画の前期計画に掲げられた施策が着実に進展し、それぞれ一定の成果を上げていることが認められた。

こうした取組が単発にとどまらず、計画に基づいて継続的に積み上げられてきたことは高く評価できる。今後は、これまで整備されてきた基盤を生かしながら、後期計画において、さらに取組の充実と発展が図られていくことを期待したい。

- ・専門性と現場視点に基づいた、具体的かつ実効性のある取組が進められている点である。

定例会や総合教育会議において、教育委員がそれぞれの専門的知見に加え、施設見学や学校訪問等を通じて得た気付きを審議に反映させており、活発で質の高い議論が行われていることがうかがえた。

例えば、図書館における電子雑誌利用の閲覧数など、デジタル化の進展を踏まえた評価指標の工夫や、史跡活用に関するダイジェスト版作成の提案など、事務局の想定にとどまらない具体的な改善提案がなされていた点は印象的であった。

このように、教育委員会の審議が形式的なものではなく、現場の実情や社会の変化を踏まえた実効性のあるものとして機能していることは、大いに評価できる。

【今後の課題としたい点】

- ・授業改善の質的向上に向けて、指導案のデータ化と生成AIの活用について検討を進めていただきたいという点である。

富士市では、1人1授業や中心授業を大切にしながら、各学校において指導案を冊子としてまとめ、授業改善に取り組んできた実績がある。これらは、富士市において蓄積されてきた貴重な教育実践の財産である。

一方で、指導案の作成や冊子化には相応の時間と労力を要しており、提出後の活用の在り方についても、さらに工夫していく余地があるものと考えられる。

今後は、指導案をデータとして保存・共有できる仕組みづくりを進めることで、教員が必要に応じて参照しやすくなり、これまで蓄積されてきた実践を一層生かし

ていくことが期待される。また、生成 AI の活用により、指導案の整理や授業改善の視点の共有などが進めば、効率化と質的向上の両面につながる可能性もある。

富士市が大切にしてきた指導案という財産を、より有効に活用できる形にしてい
くことについて、今後も検討を進めていただきたい。

・自己点検評価結果における指標の見直しと、その内容の現場への浸透を図って
いただきたいという点である。

教育振興基本計画においては、経年比較を意識した指標設定がなされていること
に意義がある一方で、社会の変化や施策の進展に応じて、指標の在り方についても
適宜見直していくことが必要であると考えられる。

今後、後期の実施計画を策定するに当たっては、何を成果として捉えるか、また
経年比較とのバランスをどのように図るかも含め、改めて検討していただきたい。

また、自己点検評価の結果については、校長等には共有されている一方で、一般
の教職員に対しては、なお伝わり方に工夫の余地があるものと思われる。市全体の
教育施策や評価の方向性が現場に共有されることで、教職員一人一人が自らの業務
とのつながりを意識しやすくなることも期待される。

そのため、重点や変更点を分かりやすく伝える資料の作成や、校長を通じた説明
の工夫など、現場への浸透を図る方策についても併せて検討していただきたい。

・こどもの居場所づくりに向けて、市長部局と教育委員会のさらなる連携・協働を
図っていただきたいという点である。

こどもの居場所づくりについては、図書館、まちづくりセンター、ステップスク
ール・ふじなど、様々な場面で取組が進められており、その広がりには評価できる。

一方で、それぞれの取組が多様な部署にまたがっていることから、全体としての
つながりや方向性をより明確にしていくことも重要であると考えられる。

この課題は教育委員会のみで完結するものではなく、市長部局、福祉、保健、ま
ちづくりなど、多様な分野に関わるものである。今後は、それぞれの部署が進める
取組や計画をつなぎながら、富士市全体として子どもの育ちを支える視点で施策を
推進していくことが求められる。

次期教育振興基本計画の策定に当たっては、「こどもの居場所」という視点を一
つの軸として、各部署の取組を結び付け、全庁的な連携のもとで施策を進めていく
ことについて検討していただきたい。今後も、関係部局がそれぞれの専門性を生か
しながら協働し、子どもたちにとって安心できる多様な居場所の充実につながる施
策の展開を期待したい。

個別意見

【大項目 1】教育委員会の活動

- ・ 新市長が教育出身者であるので、今後の市長部局との連携を大いに期待している。

【大項目 2】教育委員会が管理・執行する事務

- ・ 富士市の人口減少対策・地域産業人材育成（富士市での就職や企業など）関連性も、富士市の未来を考え考慮した教育を今後取り入れていくことが望まれる。

【大項目 3】教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

方針 1 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

◇施策の柱 1 新たな時代に対応する取組の推進

- ・ 驚異的なスピードで進化している生成 AI を、ルール等を整備すると同時に、積極的な利活用を検討せざるを得ない時代になってきていると感じる。紙媒体の多い教育現場では、AI の活用により、先生方の働き方にも今後大きな変化をもたらすであろうと感じた。
- ・ 施策柱 1 / 全体的評価基準の指標として、教育基盤という視点では、教職員に評価視点を向けていることは理解できる。また、未来を見据えた取組が進んでいることも分かった。一方で、ICT の深い学び、AI 導入、学びの連続性、地域とともにある学校という施策の中で、実際にその渦中にいる子ども目線での評価が少ないと感じた。子どもの主体性、情報活用力の変化、意欲、地域への愛着などの成果指標を加えることで、実効性のある評価となるのではないかと感じる。

◇施策の柱 2 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実

- ・ 自校での通級指導が増えたことは、児童生徒（特に送迎に難を抱える小学生）にとっては、とても有効なことであり、高く評価できる。また、アフター 5 講座において、特別支援教育に関する内容を講義していただいていることもよい。このアフター 5 講座の取組をさらに有効にするために、講義の内容を繰り返して見ることができるようなシステムを構築したらどうか。

◇施策の柱 3 安全・安心で充実した教育環境の提供

- ・ 学校施設で整備面においても、バリアフリー施設の設置など施設整備の進歩を確認できた。一方で設置後に必要な児童生徒の安全・安心につながっているのかの確認をいただくことで、誰一人取り残さない教育環境づくりという観点から、より良い環境になるのではないかと。
- ・ バリアフリースイールの設置率が 95%にも上っていることは高く評価できる。
将来、避難所としての活用を視野に入れたときに、屋内運動場のエアコンの設置の予定についても進めてほしい。また、併せて、ランニングコストの確保もお願いしたい。

方針2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

◇施策の柱1 豊かな心の育成

- ・ 「ほっとルームが子どもの自己肯定感を高めて、不登校の未然防止の役割を果たした」とあることについて
- ほっとルームは、定期的に自己肯定感を測定しているのか。
小学生に対する自己肯定感の測定は、実施時期によっても大きく変わることから、データが信頼しにくい面がある。データ等の根拠に基づいて、適切に表現したい。
- ほっとルームが、人間関係づくりに寄与するために実施している内容は何か。
- ・ 次年度への展望に「子どもの権利が尊重された教科の学習」とあるが、今ひとつ理解しにくい。何をイメージしているのか。また、実施する場合に、教育課程特例校制度や研究開発学校制度を利用することを視野に入れているか。

◇施策の柱2 確かな学力の向上

- ・ 表現が統一され、読みやすくなった。また、指導主事による指導訪問は、授業づくりに効果的である。習得、活用、探究のそれぞれの活動が、教科の学習で生かされる場面と総合的な学習の時間で生かされる場面では異なることに留意したい。教科の学習で、「探究」を活動に入れることについて、単元構想の流れに特に留意したいところである。
- ・ また、「探究的な学びの実現につながる単元構想が浸透してきた。」とあることについて、指導訪問時に提出する学習指導案が旧態依然となっていないか、単元構想に重点をおくとしつつも、授業過程への指導に終始していないかについて確認をしてほしい。
さらに、教育指導室が理想とする単元構想の模範例を各学校に示したい。

◇施策の柱3 健やかな体づくり

- ・ 「地域防災の担い手となる児童生徒を育成する」という一文に、とても共感する。地域住民も同様に感じている。学校運営協議会を通じて、各地域の役員へ浸透していただくよう働きかけていただければ、思いと思いがつながるのではないかと感じた。

◇施策の柱4 頼もしい教職員の育成

- ・ 効果を測るために、数値で判断していることは仕方がないことであるが、それゆえに報告が歪められる可能性がある。教職員が、休日にどのような業務を持ち帰って自宅で仕事をしているのかについて、確実に調査を進めていく必要がある。その上で、具体的な対策を進めたい。
例えば、指導案づくりにかなりの時間を奪われている実態、通知表づくりに時間を奪われているなどが実態としてあるならば、これに対する質的な支援策を進めるべきである。

- ・ 任期付教員の配置換えに配慮が欠けている例が見られた。長期的に見れば、その配慮の無さが、欠員を生み出している場合がある。

文部科学省の資料（R7. 12. 22）によれば、転勤後１年後から２年後にかけて精神疾患による休職者が多くなるというデータがある。このことから、短期間で本人の望まない配置換えを繰り返すことには、相当の注意が必要である。準備段階での声掛けや希望調査は必須であり、それを生かす温かみのある配慮が求められる。

◇施策の柱５ 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

- ・ 近年、富士市で学び、県外に出ると地元には戻ってこないという状況から、富士市の産業界の人手不足が顕著であると産業界の声があがっている。商工会議所青年部としても、富士市内企業を職業選択の前にいかに知ってもらえるかという視点で、インターンシップや企業説明会などを行っている。地域の産業人材育成という視点でも、今後教育委員会・行政の皆さんと手を取り合っていけることを望んでいる。

- ・ 部活動の表記は必要か。（義務教育段階では、教育課程外の活動についての記述はない。）

高校部活動の活性化が、義務教育に大きな影響を与えてきたことは周知のとおりだが、市教委としてどうあるべきかを考える時期に来ていると思う。

方針３ 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

◇施策の柱１ 人生 100 年時代を豊かに生きる学びの推進

- ・ 商工会議所青年部との取組として、現在リカレント教育という視点で大学と共創し実行を進めている。大人になってから学び直しという点では、市民のニーズもあることと推測する。富士市の文化的な発展・産業の発展にもつながっていくと考えている。ぜひリカレント教育について、必要性やニーズ調査、導入などを検討いただけると幸いである。
- ・ 「無限∞のキズナ」事業であるが、参加した研修生が「楽しかった」だけで終わることなく、一人ひとりが何かを得て、未来へ向かって自分の成長につながるようなきっかけを与える事業になっていくことを願うものである。

◇施策の柱２ 市民の学びの場である図書館の充実

- ・ 他市では高校生が「読み聞かせ」を実施していたり、高校生向けの「情報収集講座」を開催するなど高校生が図書館を利用する手立てが増えつつある。富士市のニーズにもよるがより利用がしやすい図書館を目指していただきたい。

◇施策の柱３ こころ豊かな市民文化の創造

- ・ 博物館は座学では得られない「肌感覚」を醸成する機会となるため、小中学生の利用が増えることに期待したい。

令和7年度に実施したその他の重要な取組

- ・ はぐむF U J I 婚活支援事業は、民間移行を検討してはどうか。行政は地域課題の解決の視点から、支援・効果検証に重点をおき、イベント的な要素が強いので（マーケティング・集客・マッチング）、企画運営が向く内容であると考えた。それにより、より良い効果を期待できると考える。
- ・ 部活動の地域展開について、かつて思い描いていた理想に近づけるために、今後も推進してほしい。

全体の感想

- ・ 多岐にわたる取組を着実に進められており、関係者皆様のご尽力に敬意を表する。子どもから大人まで「富士の人」づくりという目標に向けて前進をしていると感じる。今後ともよろしく願いたい。
- ・ 毎年のことであるが、私自身が多くのことを勉強させていただく外部評価検討会である。子どもから大人まで、誰一人取り残さない富士市を目指し、業務に取り組んでいらっしゃる皆様方に、とても感謝している。すばらしい教育委員会の活動を地域住民にもっともっと知っていただきたいと改めて感じた。
- ・ 5年間同じ指標で評価することが、難しい施策が見受けられる。第3次基本計画では、評価基準をどのようにするのか、ご検討いただければと思う。
- ・ 行政として教育に力を入れてくださっていることに感謝申し上げる。引き続き、関心をもって取り組んでいただきたい。

おわりに

「令和7年度富士市教育委員会の自己点検・評価」の外部評価をするに当たり、教育委員及び教育委員会事務局から意見を伺った上で所見（外部評価報告）としてまとめた。

本文でも触れたが、評価できる点として2点（①教育振興基本計画の着実な進行、②専門性と現場視点に基づいた具体的かつ実効性のある取組）指摘した。特に教育委員会定例会や総合教育会議では、教育現場の実態を踏まえた上で委員それぞれが持つ「強み専門性」の観点から建設的な議論が展開されていることは、教育委員会制度趣旨である「レイマンコントロール」が有効に機能している証左であると思われる。

他方、今後の検討課題として3点（①指導案のデータ化とAI活用、②評価の指標の見直し、③こどもの居場所づくり）指摘した。特に、AIについては近年の技術革新が急激に進み、AIは業務だけでなく日常生活においても大きな存在感を示しつつある。AIにより効率化がはかられたことで生み出された時間をどのように使うかが問い直されている。特に、指導案については、何度も書き直しながら実践し、試行錯誤を繰り返すことで「自分のもの」として会得してきた教員も多いのではないだろうか。そのような一見「遠回り」のようなプロセスこそが長期的に見れば「近道」であったと後になってから認識することもある。また、「考えること」を放棄してAIに委ねる世界をフィクションとして描いた星新一「おカバさま」（『未来いそっぷ』／新潮文庫）は、そう遠くない世界を予言しているようで、改めて「考える」ことこそが人間としての存在価値なのだと痛感させられる作品である。

さて、次期学習指導要領の改訂の方向性が議論されているが、同時に教員免許法改正の議論が進められており、教員養成カリキュラム改革の方向性も徐々に明らかになってきている。これからは教育職員免許状に校種・教科に加えて各大学が設定した「強み専門性」（日本語指導・防災など）が付記されることになる。その上で、これからの学校は異なる「強み専門性」をチームとして活かしながら様々な教育課題に対応していくことが求められようとしている。ただ、「強み専門性」は大学で学ぶだけで確立されるものではなく、実践の中で試行錯誤しながら高められていくものであろう。そこには「失敗」がつきものである。「失敗」を「成功」に昇華するための「チーム力」を学校が高めるためにも、地域の関わりは重要であるとともに、その出発点は「こども」であろう。

富士市は県内でいち早く「富士市子どもの権利条例」を制定した。この精神を市民全体で共有して「一緒に学ぶ 一生学ぶ」を文化として醸成していただきたい。

令和7年度 富士市教育委員会自己点検・評価に関する外部評価検討会委員
島田 桂吾・鈴木 幸人・工藤 千麻琴・内田 祐子